

formosusとはラテン語で「美」を意味します。古代ローマに造られた建築の美しさ表現したものです。東北の豊かで美しい自然を生かした社会資本整備には「用・強・美」が必要であり、集大成された「美」を追求していきたいとの思いで本誌のタイトルにしています。

国土交通省 東北技術事務所 電子広報誌 WEB formosus(フォルモス)発行事務局 発行2018.11.2



北海道
胆振
東部
地震

災害対策車出動！！



目次

	ページ
◇ 北海道胆振東部地震対応について.....	2～
◆ 夏休み2018宿題★自由研究大作戦実施報告.....	4～
◇ 官民合同のICT技術講習会実施状況報告.....	6～
◆ UAV(ドローン)所内講習会.....	8～
◇ 津軽ダムコンクリート長期品質確認調査について.....	9～
◆ インターンシップ報告.....	11～
◇ 災害対策用機械の紹介(5GHz帯無線アクセスシステム(i-RAS(アイラス))).....	12～
◆ NETIS新技術の紹介.....	13～
◇ 東北技術事務所の歴史を辿る(機械化施工発祥の地モニュメント).....	15～
◆ 建設技術公開EE東北'19の出展者を募集します！.....	18～
◇ あとがき.....	18～

北海道胆振東部地震対応について

平成30年9月6日に北海道胆振東部で発生した地震では、大規模な土砂崩落が発生し、東北技術事務所からTEC-FORCE隊員及び災害対策車両を派遣しました。

派遣期間：平成30年9月7日～平成30年9月15日（TEC-FORCE隊員）
平成30年9月6日～平成30年9月16日（待機支援車1台）
平成30年9月7日～平成30年10月6日（分解対応型バックホウ1台）
平成30年9月8日～平成30年9月16日（照明車1台）
平成30年9月8日～平成30年10月6日（照明車3台）

派遣人員：延べ19人

派遣車両：待機支援車1台、照明車4台、分解対応型バックホウ1台

TEC-FORCE隊員は主に苫小牧市、厚真町、むかわ町及び日高町で、土砂災害緊急復旧支援や河川堤防緊急復旧支援、自衛隊給水作業支援を行いました。

本号では東北技術事務所のTEC-FORCE隊員の活動状況について報告します。

【TEC-FORCE・災害対策車両の出動状況】



出動式



バックホウの出動状況

【活動場所】



【活動状況】

苫東中央管理ステーション

苫東中央管理ステーションにて災害対策用機械の運用・管理及びオペレーターへの指示・調整を実施。



ミーティング状況



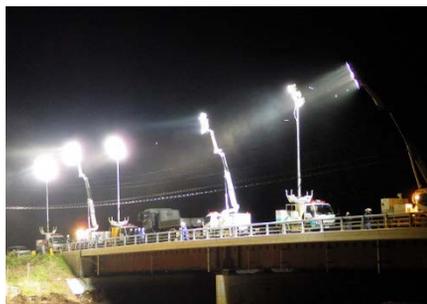
災害対策用機械の受入れ



オペレーターと打合せ

土砂災害緊急復旧支援(厚真川)

厚真川の河道閉塞箇所に対して、緊急復旧支援を実施。



照明活動



バックホウ稼働状況



バックホウ稼働状況

自衛隊給水作業支援(日高町)



給水場所



オペレーターと打合せ



照明車による支援状況

【帰還式】

TEC-FORCE隊員の帰還に伴い、東北技術事務所では帰還式を行い、隊員たちの労をねぎらいました。



東北事務所長挨拶



帰還式状況

宿題★自由研究大作戦



©Lily Franky

東北技術事務所

小学生と保護者のための夏休みイベント「夏休み2018宿題★自由研究大作戦」が、8月9日、10日の2日間、仙台市宮城野区の夢メッセみやぎにて開催されました。

東北技術事務所は2日間で延べ50人のスタッフでサポーター（出展者）として参加しました。

このイベントは、小学生が夏休みの宿題や自由研究を行うための学習の場の提供と、職業体験や実験教室などの模擬体験を通じて社会への関心を高めることを目的として、（一社）日本能率協会が主催し毎年開催しているものです。

東京、大阪、仙台の3会場で行われ、仙台では3回目となります。

8月9日は台風13号の接近が予想され、開催自体も危ぶまれましたが、午前中のみ開催に短縮となりました。また、事務所内では、台風によるスタッフ配置の見直し、出展内容の変更など、ぎりぎりまで対応に追われました。

当日は、予想していた風雨の影響もあまりなく、無事終了することができました。

当初は4つのプログラムの出展を予定していましたが、来場者の安全を考慮し屋外出展の1つをとりやめ、3つのプログラムの出展となりました。

会場には2日間で4,000人近い親子連れが訪れ、500人を超える子ども達が整備局のプログラムに参加してくれました。



会場内の様子



東北地方整備局コーナー

工作教室！木の棒を組み合わせて橋をつくろう！！

レオナルド・ダ・ビンチが考えたと言われる「ダ・ビンチ橋」の製作を通じ、橋の構造を理解しようというプログラムです。

小さな部品の組み立てに、子どもたちは真剣に取り組み、橋の構造を学んでいました。



「よし、くっついたぞ！」



ダ・ビンチ橋



「ここはこんな仕組みになってるんだ」



プログラム開催状況



「僕も将来は橋をつくろう！」



「もう少しで完成だ！」

河川の水を調べる「水質調査実験隊！」

パックテストや、水生生物の写真を貼り付けた石を使って川に住む生き物の種類から水の汚れを調査しました。ザリガニがとても汚い川で生活できることに驚いたり、たくさんの種類の生物（石）を見つけては、注意深く名前を確認していました。



真剣に説明を聞く子ども達



「水質で色が変わるんだね」



「この生き物はきれいな水？汚い水？」

とびだす映像で災害を体験しよう！

「自然災害体験車」による土石流の3D映像を見て、災害の怖さや備えについて学ぶプログラムです。子ども達は飛び出す映像に夢中でしたが、7月に発生した西日本豪雨災害など、土石流災害が全国各地で発生していることから、一緒に参加した保護者の方がより真剣に聞いているのがとても印象的でした。



「何が始まるのかな？ワクワクするね」



災害への備えの説明



上映の様子

どのプログラムも、親子一緒に楽しそうに、また、真剣に取り組んでいました。これらのプログラムが、子どもたちの夏休みの自由研究のテーマとして活用され、将来は国土交通省で働いてもらえるよう、期待しています！

「第8回復興加速化会議」(平成29年12月16日)にて示された「～新たなステージへ～東北復興働き方改革プロジェクト」の一環として、加盟15団体の若手技術者を育成する「官民合同技術講習会」のうち、このたび「ICT,UAV技術講習会」を開催しました。
今回は座学、現地実習、東北6県・仙台市の7会場で延べ520人(国・自治体229人、民間291人)が受講しました。
※速報につき人数に修正が生じる場合もあります。

【ポイント】

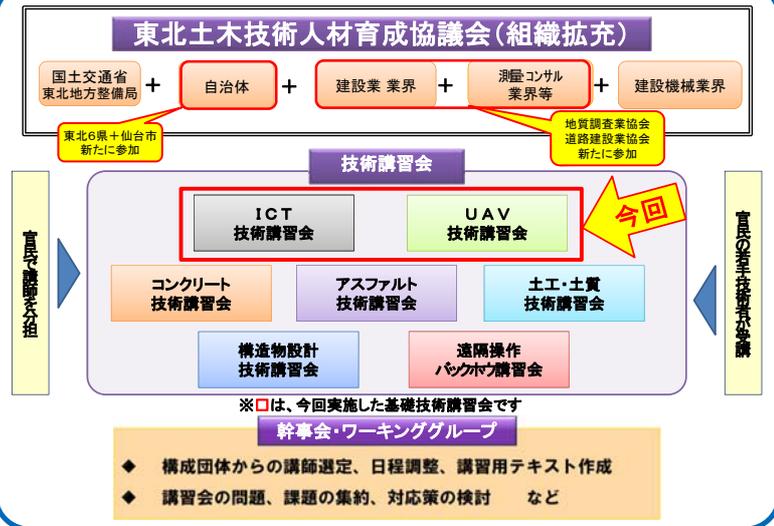
- ICT,UAV技術講習会については、昨年度は東北技術事務所だけで開催されたのですが、今年度は東北6県+仙台市の全7会場で開催される運びとなりました。
- 今回はそのうち、最も早い開催となる宮城県分と、それに続き仙台市分が開催されたものです。
- 技術講習会は、このほか「コンクリート」「アスファルト」「土工・土質」「構造物設計」「遠隔操作バックホウ」等についてそれぞれ複数回開催されるものです。

東北復興働き方改革プロジェクト(一部抜粋)

働く人々をサポート!(人づくり支援)

- 講習会、研修などでサポート
 - 自治体職員を含む人材育成協議会の活動推進
 - 自治体職員の防災対応力向上試験(学び塾)

官民合同技術講習会の枠組



○開催日時:平成30年9月26日～10月26日

○講習内容:ICT, UAV

○主催:東北土木技術人材育成協議会

参加団体:国土交通省東北地方整備局

青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県
福島県、仙台市

(一社)日本建設業連合会 東北支部

東北建設業協会連合会

(一社)東北測量設計協会

(一社)建設コンサルタンツ協会 東北支部

(一社)日本建設機械施工協会 東北支部

(一社)東北地質調査業協会

(一社)日本道路建設業協会 東北支部

赤字:
H30.3参加団体

ICT基礎技術講習会 開催日

- 【青森】平成30年10月26日
 - 【秋田】平成30年10月16日～17日
 - 【岩手】平成30年10月23日
 - 【山形】平成30年10月24日～25日
 - 【宮城】平成30年9月26日～27日
 - 【福島】平成30年10月17日～18日
 - 【仙台】平成30年9月27日～28日
- ※2日にわたる予定は現場実習等によるもの

座学のカリキュラム(仙台市会場の例)

説明者・講師	時間
あいさつ 仙台市都市整備局 参事兼技術管理室長 太田 進	
1 東北地方整備局における i-Constructionの取り組み 東北地方整備局 施工企画課 課長補佐 伊藤 圭	10:00 ~ 10:20
2 仙台市における取り組み 仙台市都市整備局技術管理室 工事管理係長 渡部 昭彦	10:20 ~ 10:35
3 ICT 活用工事 (概要、実施方針、要領) 日本建設機械施工協会(JCMA) 情報化施工技術委員会 サイテックジャパン(株) 鈴木 勇治	10:35 ~ 11:15
4 3次元測量の概要と留意点(3次元測 量の基礎知識、安全対策、事例等) 東北測量設計協会 技術委員会 (株)復建技術コンサルタント 技術センター 課長 市川 健	11:15 ~ 12:00
昼休み	12:00 ~ 13:00
5 ICT建機施工 日本建設機械施工協会(JCMA) 情報化施工技術委員会 サイテックジャパン(株) 鈴木 勇治	13:00 ~ 14:00
6 ICT活用工事の監督・検査の留意事 項 東北地方整備局 技術管理課 課長補佐 片野 正章	14:00 ~ 15:00
休憩	15:00 ~ 15:10
7 点群ソフト、3D 設計データ 日本建設機械施工協会(JCMA) 情報化施工技術委員会 福井コンピュータ(株) 米倉 隆博	15:10 ~ 16:00
8 TS、GNSS 3次元計測(検査等現場 計測) 日本建設機械施工協会(JCMA) 情報化施工技術委員会 サイテックジャパン(株) 鈴木 勇治	16:00 ~ 17:00

現地実習のカリキュラム(岩沼ICTセンター会場)

- ① ICT建機操作実習に関する概要説明 10:00 ~ 12:00
- ② ICT建機操作実習 日本建設機械施工協会
(JCMA)情報化施工技術
委員会 または
- ③ レーザースキャナ計測実習 13:30 ~ 15:30
- ④ TS、GNSSローパー計測実習

カリキュラム・講義の工夫

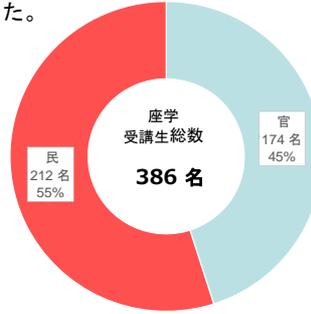
- ICT,UAV(i-Construction)の全般的な基礎知識の習得を目指す内容。
- 3次元測量・設計から、ICT建機による工事の監督・検査など幅広く網羅。
- 講師は、第一線で活躍する技術者が実施。
- 動画を用いることで、ビジュアル的に理解しやすくするよう工夫。
- 座学と現地実習は、セットではなく、別々にも受講可能とすることで、受講機会の拡大を図る。
- CPD,CPDSの認定を受けることで、受講のモチベーションを高める。

○座学は7会場各1日開催され、延べ386名が受講しました。

※速報につき人数に修正が生じる場合もあります。

○カリキュラム (10:00～17:00)

- (1) 東北地方整備局におけるi-Constructionの取り組み
- (2) 〇〇県における取り組み
- (3) ICT活用工事(概要、実施方針、要領)
- (4) 3次元測量の概要と留意点
- (5) ICT建機
- (6) ICT活用工事の監督・検査の留意事項
- (7) 点群ソフト、3D設計データ
- (8) TS、GNSS 3次元計測(検査等現場計測)



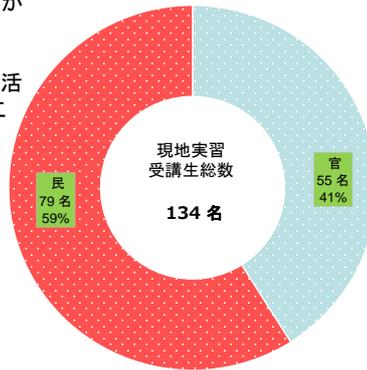
○現地実習・現場見学は4県で開催され、延べ134名が受講しました。

※速報につき人数に修正が生じる場合もあります。

○秋田県と宮城県・仙台市では民間の研修センター等を活用した現地実習、山形県と福島県では直轄のICT活用工事の現場見学として開催されました。

○主なカリキュラム (計2時間)

- ・ ICT建機
- ・ UAV計測
- ・ 地上設置型TLS計測
- ・ TS・GNSSローバー実習
- ・ 3次元設計、出来型管理 など



秋田県会場
月日: 10月17日(水)
場所: 秋田県五城目町
(秋田県建設ICT総合研修エリア)
受講生: (午前) 官10名 民12名
(午後) 官7名 民12名 計41名



福島県会場
月日: 10月18日(木)
場所: 福島県伊達市
(東北中央自動車道 下小国地区道路改良工事)
受講生: 官12名 民15名 計27名



宮城県・仙台市会場
月日: 9月27日(木)
場所: 宮城県岩沼市内
(日本キャタピラー 岩沼ICTセンター)
受講生: (午前) 官11名 民12名
(午後) 官4名 民15名 計42名



山形県会場
月日: 10月25日(木)
場所: 山形県村山市
(東北中央自動車道 村山地区道路改良工事)
受講生: 官11名 民13名 計24名



UAV(ドローン)所内講習会

所内の職員に対し、UAVの講習会を実施しました。

本講習会は、DID区間でも飛行可能となるよう座学と実機での操作実習を行ったのもで、本講習会後も、10時間以上の飛行訓練を行い、航空局へ申請し、許可を得る必要があります。

日 時：平成30年10月12日（金） 13：30～15：30

受講人数：13名

【座学等】

航空法やUAVの構造、特性及び運用などの講義後、シミュレーターを使用して操作実習を実施しました。



講習状況



シミュレーターによる操作

【操作実習】

東北技術事務所はDID区間であるため、室内で操作実習を行いました。実習では確実な離着陸方法や飛行の操作方法について教示しました。



操作実習状況



操作方法の指導状況

《津軽ダムコンクリート長期品質確認調査について》

◆津軽ダムにおける施設の長寿命化への取組み

将来ダム総合点検等堤体からのコア採取を必要とする調査時に極力堤体コンクリートの損傷を軽減するため、建設時に予め堤体コンクリートと同一の性状の供試体を作成し、これを用いて各種試験を実施する計画としている。

この供試体はダム本体と同じ環境下に設置(暴露)されている。



供試体設置状況
(常時気中個所)

◆供試体の種類と調査内容

○供試体は標高毎4箇所を設置されている。

- ・ダム天端1箇所: 常時気中
- ・貯水池内3箇所: 水中気中繰り返し2箇所、常時水中1箇所

○各箇所に大型供試体(1.2m×1.2m×1.0m)4体、小型供試体(0.1m×0.1m×0.4m)3体。

- ・大型供試体→3体は圧縮強度試験等の破壊試験用、1体は超音波法による動弾性係数測定用の非破壊試験用
- ・小型供試体は共鳴振動法及び超音波法による動弾性係数の非破壊試験用

○調査は非破壊試験について実施。

調査計画の中、破壊試験についてはダム総合点検時等に大型供試体からコア採取を行い、圧縮強度、静弾性係数他の試験を実施予定である。

本調査では以下の項目について非破壊試験を継続的に実施する。

- ・外観観察
- ・質量測定
- ・超音波伝播速度測定
- ・たわみ振動の一次共鳴振動数測定

➡ 動弾性係数換算

↳ 相対動弾性係数算出

↳ **コンクリート劣化進行度合いの把握**

○調査は1回/年実施で、期間は概ね30年間隔で実施されるダム総合点検をにらみ、その3回に相当する90年を予定している。

◆東北技術事務所の取り組み

これまで岩木川ダム統合管理事務所が実施してきた供試体によるダムコンクリートの品質確認、調査を来年度から当事務所が引継ぎ実施する。

それに先立ち今年8月に津軽ダム現地にて予備的な調査を実施した。

- ・超音波伝播速度の測定は問題なく継続調査が可能と確認
- ・たわみ振動の一次共鳴振動数測定については、これまでの調査結果に対して、測定機器の違い等に起因すると考えられる測定値の差異を確認



11月に2回目の予備調査を実施し、過去の調査結果との摺り合せを行う予定



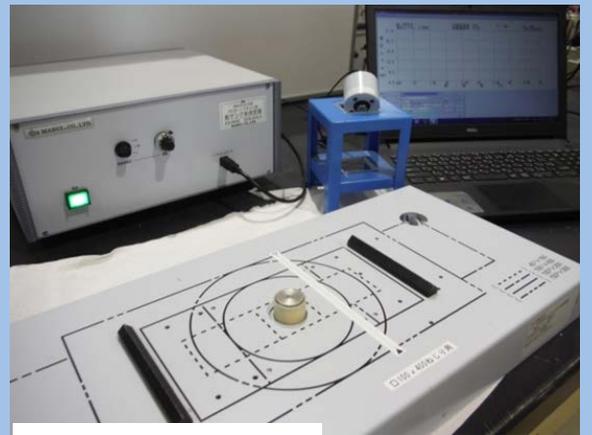
大型供試体測定状況
(超音波法)



小型供試体測定状況
(共鳴振動法)



超音波測定機器



共鳴振動測定機器

本調査は90年という長期間にわたり実施する調査である。

長年のデータの積み重ねが数十年後のダムコンクリートの品質評価につながるものであるため、ダムの長期にわたる安全性の保持・長寿命化に寄与できるよう調査を実施していく。

問い合わせ先 : 品質調査課

インターンシップ報告

学生を対象に、実務を体験してもらうことにより、職業意識の啓発、キャリア形成の支援、国土交通省東北地方整備局への理解を深めてもらうことを目的とし、就業体験技術実習(インターンシップ)を行っています。

今年度、東北技術事務所で、インターンシップを行いましたので活動内容をお知らせします。

日 時：平成30年8月27日（月）～8月31日（金） 5日間

実習生：宮城県内の大学生2名

【実習内容】

	A M	P M
1日目	全体ガイダンス 材料試験実習(コンクリート)	体験型土木構造物実習 材料試験実習(アスファルト)
2日目	河川管理施設点検現場見学	東日本大震災復旧工事等現場見学
3日目	TEC-FORCE活動説明 災害対策用機械説明	道路保全調査説明 河川事業説明
4日目	橋梁点検見学	管内道路工事現場見学
5日目	成果レポートとりまとめ	成果発表、感想文

【実習状況】



材料試験実習



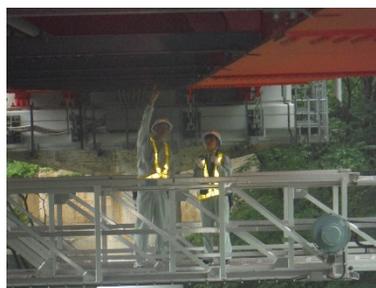
体験型土木構造物実習



災害対策用機械説明



河川管理施設現場見学



橋梁点検見学



成果発表

5GHz帯無線アクセスシステム

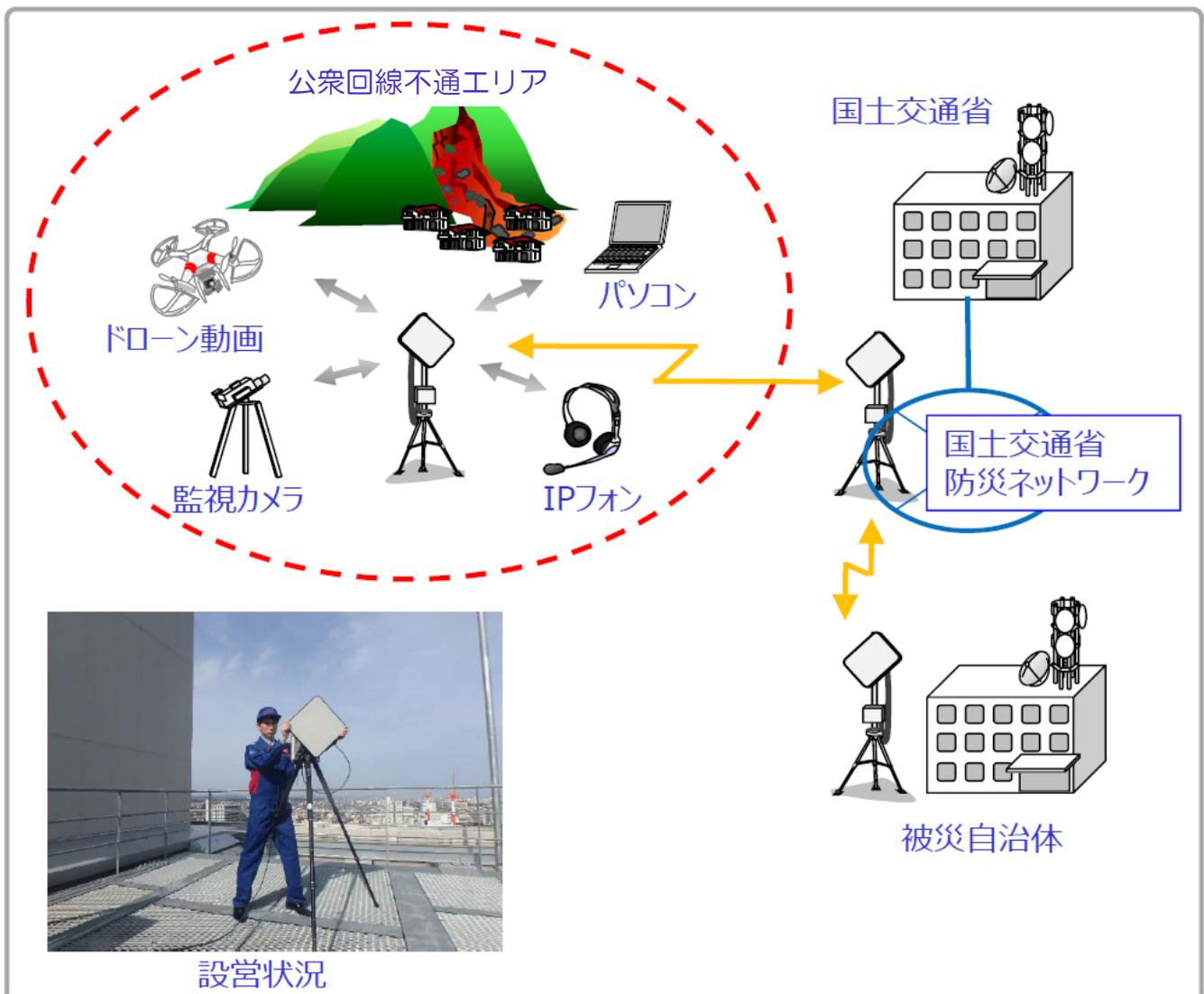
今号では、携帯電話などの公衆回線が不通となった場合、災害現場や自治体へ、無線回線によるアクセスポイントを構築し、国土交通省防災ネットワークを延長する、5GHz帯無線アクセスシステム(i-RAS(アイラス))を紹介します。

【特 徴】

- ・伝送距離 30km(見通し)
- ・伝送速度:約10~35Mbps
- ・屋外使用可能
- ・重量30kg程度
- ・設営30分程度

【どんなことができるのか】

- ◆公衆回線不通エリアからの映像・音声・データ送受による情報共有
- ◆国土交通省と自治体間の臨時通信回線の設営(音声通話・テレビ会議)
- ◆公衆回線不通エリアに設置した監視カメラによる遠方監視・操作



5GHz帯無線アクセスシステムによる接続イメージ

NETIS 新技術の紹介

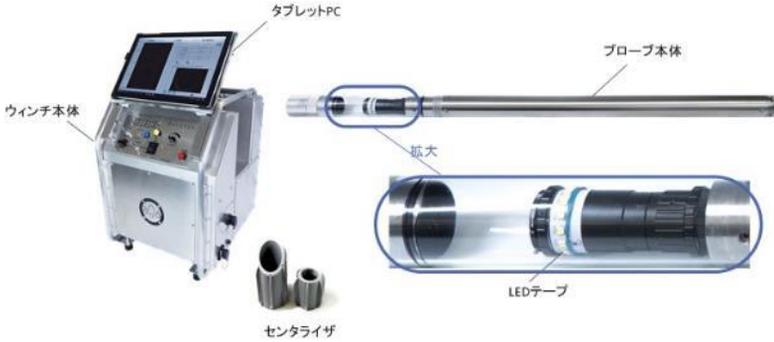
東北で採用されたNETIS登録技術

新技術情報提供システム＝NETIS（**New Technology Information System**）は公共事業において新技術の活用を促進することを目的として、平成18年より運用している情報データベースです。平成30年10月現在、NETISには2,742件の技術が登録されています。

今回は、8月から10月の間に、登録した4技術を紹介します。

番号をクリックすると公式サイトで
技術の詳細情報が確認できます



① 高速型ボアホールスキャナ装置	登録番号	TH-180005-A
<p>本技術は、ボーリング孔内の孔壁を観察するための機器であり、ボーリングコアでは分からない割れ目の方向や開口量の情報を得ることができる。従来機種よりも高速で観測できるため、作業工程の大幅な短縮によりトータルコストの削減が可能となった。</p>		
 <p>機器外観</p>		 <p>タブレットPC操作画面</p>

② トンネル対応GFRP製ハンドレール	登録番号	TH-180006-A
<p>本技術は主構造にGFRPを採用することにより軽量で施工性に優れ、高い耐食性を有するハンドレールである。従来は鋼製ハンドレール(溶融亜鉛メッキ)で対応していた。本技術の活用により、ライフサイクルコストの低減が期待できる。</p>		



トンネル内設置状況 1



トンネル内設置状況 2

③ 主桁・床版一体型FRP検査路

登録番号

TH-180007-A

本技術は、構造部材にFRP部材を用いることで、塩害の影響を受ける環境においても長期間にわたり使用可能である。また、独自開発した主桁と床材を一体成形したFRP床版は、安全性の向上に寄与する。



製品外観（全体）



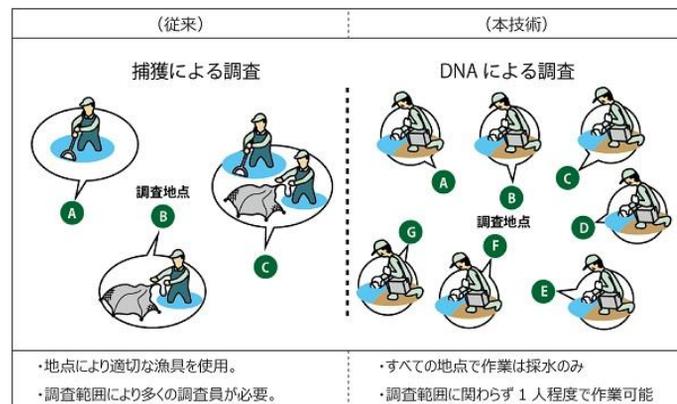
製品外観（正面）

④ 種特異的プライマーを利用した環境DNA分析による水生生物調査技術

登録番号

TH-180008-A

本技術は、採水試料に含まれる生物のDNA(環境DNA)を分析することで、調査対象種の在・不在を推定する技術であり、従来は主に捕獲法により調査されていた。本技術の活用により現地作業の省力化、環境攪乱の防止、調査精度のばらつき等の低減等が期待できる。



従来の技術と本技術の比較イメージ



対象種

新技術の登録や活用について、ご不明な点がある場合は、お気軽にお問い合わせください。

問い合わせ先：施工調査・技術活用課
電話番号 022-365-7983

新シリーズ 第1回目

東北技術事務所の歴史を辿る^{たど}

～ノ技～

東北技術事務所の歴史は古く、前身は大正6年に設置された内務省仙台土木出張所、塩釜港修築事務所
 附属機械工場、その後、昭和9年に塩釜機械工場として独立し、改称を経て昭和24年に仙台機械整備事
 務所として現在の位置に設立されました。また、昭和41年に技術事務所として建設事業の円滑な推進に資する
 総合技術センター的な役割を果たす事務所として生まれ変わりました。技術事務所となってからは、今年度で
 52年目、機械工場時代の内務省の頃から数えると、創立84年目を迎えております。歴史ある事務所のため、
 ここで働く職員も過去のことをよく知らないことが多くあります。そこで、この度、東北技術事務所の歴史を振り
 返り、皆さまにも知っていただきたく新シリーズとしてご紹介いたします。

第1回目の今回は、東技事務所前を通ると見えている、黄色い機械について深く掘り下げます。



■「機械化施工発祥の地」モニュメント(1/2)

東北技術事務所沿いを通ると見えてくる黄色い重機2台。かなり古く感じられるその機械は、なぜ、ここに置いてあるのか、何をしてきた機械なのだろうか。その謎にせまる。



▲外から見える重機の様子

▼石碑には、「機械化施工発祥の地」とある。発祥の地！？



左側



右側

▲置いてあるブルドーザ2台の拡大写真。歴史を感じる2台である。そこで、東北技術事務所(略称:東技)の歴史を知る“東技師匠(機械部門)”にお話を伺いました。

現在では、建設工事が請負施工であることが当たり前ですが、戦後復興期の昭和25年頃は米軍払い下げの建設機械を主力とした直営施工を行っていました。

昭和24年に仙台機械整備事務所を発足し、建設機械による機械化施工推進のためモータープールが設置され、機械の整備と運転の技術を習得したオペレータ達が管内各地へ建設機械と共に長期派遣され、ダム・河川・道路の工事が盛んに行われ、復興に大きく貢献しました。

建設工事がこれまでの馬トロ・人力からブルドーザなどの大型建設機械に置き換わり、省人化で短時間に大量の作業(機械合理化施工)ができるようになり、その後、国産の建設機械も開発導入され、建設の機械化は急速に普及していきました。この機械化施工への変遷期の礎となったモータープールがあったこの地を記念し、「機械化施工発祥の地」として、当時活躍したブルドーザ2台をモニュメントにしています。



▲派遣施工の様子(1)



“東技師匠(機械部門)”

■機械化施工発祥の地モニュメント(2/2)

右側が「三菱日本重工(株)(現三菱重工業)製BBIV(びーびーふぉー)」昭和32年8月製造となっています(今年61歳です)。
左側が「(株)小松製作所(現コマツ)製D80-6(でいはちじゅう)」昭和37年5月製造となっています(今年56歳です)。「昭和40年7月17日1,723hr 済」が打刻された東北地方建設局仙台機械事務所の定期整備の銘板が貼られています(←仙台機械事務所は僅か2年で改称されたので稀少です)

ここで、豆知識

「D80の素性」

米軍が国内に持ち込み活躍していたキャタピラー社のD7という15トン級のブルドーザを基に国産化に取り組み、昭和28年(1953年)に開発されたものです。重量は16000kgあります。



「モータープール」について、余談ですが…

昔の多賀城を知る方々は、東北技術事務所よりも「モータープール」と言うほうが馴染む方がいらっしゃるようです。事務所前のバス停も今は「桜木三丁目」ですが、以前は、「モータープール前」でした。高齢のタクシー運転手の方も「モータープール」のほうが通じやすい方もいるようです。

<タクシーでの会話(実話です)>

客「東北技術までお願いします。」

運転手「東北技術????(一呼吸おいて)ん! あぁモータープールね」

客「モータープール?(それ何)東北技術の研修所までお願いします。」

運転手「はいわかりました。研修所ね! 門に入って左の奥でしょ!」



▲派遣施工の様子(2)



▼説明看板の文章

機械化施工発祥の地

直轄工事直営で馬トロまたは機
関車で築堤工事が実施されていま
いた昭和二十四年頃から米軍から
の受け受けたブルドーザ、キャリ
オールスクレーパー、グレーダ等が
省に導入され、当時モータープール
整備技術、運転技術を習得して、各
長期派遣で建設機械による本格的
機械化施工が実施されるようになり
期短縮、経済性向上、省力化が計ら
六年毎に機械化施工が普及し昭和
六十年頃からは民間でも建設機械
ブルドーザを機械化施工発祥の地
念してここに展示したものである。

昭和六十三年三月

東北技術事務所

これにて、「東技師匠」により謎が解き明かされ、また、機械の名前・年齢も判明し、親近感が湧くこととなった。まだまだ東北技術事務所には、歴史を感じ、気になる施設がたくさんある。さらなる謎について解明していきたい。

結論:「機械化施工発祥の地」とは、この場所から、最新の施工機械と、最先端をゆく技術者の精鋭部隊が派遣されていた技術の始まりの場所であった。

次号につづく…

建設技術公開EE東北'19の出展者を募集します！

建設技術公開EE東北は、建設事業に係わる新材料、新工法、その他時代のニーズに対応して開発された新技術を公開しその普及を図ることにより、さらに新たな技術開発の促進と良質な社会資本の整備を通じて、社会に寄与することを目的とし、平成2年から毎年開催しています。

前回の「EE東北'18」では、出展者数295社、889技術の展示、過去最高の16,300人の方にご来場いただきました。



この度、平成31年6月5日(水)～6日(木)の2日間、夢メッセみやぎ(仙台市)にて「建設技術公開EE東北'19」の開催が決定しました。

「建設技術公開 EE東北'19」に出展いただける出展者を募集します。

屋内小間:平成30年11月5日(月)～12月7日(金)17時まで
先着順で定数に達し次第、受付を締め切りますので、お早めに申してください。

屋外小間:平成30年11月5日(月)～11月7日(水)17時まで
抽選にて出展決定いたしますので、上記期間内に申してください。

なお、詳しくは、EE東北19ホームページで確認願います。

<http://www.thr.mlit.go.jp/tougi/eetohoku/ee19/index.html> ※EE東北19で検索

事務局から

今年は、大規模災害が多発した異例の年になったようです。平成30年7月豪雨の復旧途上で、猛烈な台風21号(9月)、北海道胆振東部地震(9月)と短期間に連続で災害をもたらし、直後から全国のTEC-FORCE隊派遣がなされました。当事務所からも7月の岡山・広島派遣に続き、北海道胆振東部地震に災害対策車5台(照明車3台、分解組立バックホウ1台、待機支援車1台)と職員2名が派遣され、現地の緊急復旧作業による自治体支援等を実施しました。この他、被災状況にも特徴があり、猛烈な台風による強風被害や大規模地震による広域停電被害など、最近にない災害が多かったと思われます。台風期は例年であれば秋頃に終わりますが、過去には12月に台風被害があった年もありましたので、まだまだ用心が必要な年かもしれません。

日本は世界的にも災害が多い国で、社会インフラ等は災害に強い構造となっていますが、想定を超える自然の猛威に抗うことは到底不可能です。日頃からこうした気構えを持つことで、災害を早期に復旧できる力が日本人には備わっているのではないかと思います。「災害は忘れた頃にやってくる」「備えあれば憂い無し」、「想定外は想定内」と言われるように、普段の生活や日頃の業務でも様々な事象を想定し、備え、そして経験知を活かした柔軟な対応が出来るよう、心掛けたいと思うところです。

一方、多発する災害から身を守るために必要な対策等について住民への積極的な啓蒙活動の取り組みも必要と考え、今年も小学生の親子を対象とした「夏休み2018宿題自由研究大作戦」に参加し「自然災害体験車で土石流災害を3Dで疑似体験するコーナー」を設けました。この日は台風13号の影響がある天候でしたが、当コーナーは大賑わいで災害に対する関心の高さが伺えました。参加者には大変好評で、関東技術事務所からの借用に大変苦労しましたが報われました。

今号から新シリーズ「東北技術事務所の歴史を辿る」が始まりました。まずはルーツを探るところから。次回以降、色々な角度から某局の「ヒストリア風」に探ってみたいと思います。乞うご期待です。(M記)

発行元

国土交通省 東北技術事務所 WEB formosus(フォルモス)発行事務局

〒985-0842 宮城県多賀城市桜木3丁目6-1 TEL022-365-8211(代表)

フォルモス事務局 品質調査課

FAX 022-365-7988

E-mail: thr-tougi02@mlit.go.jp

事務所ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/tougi/index.html>